

■保育室はオープンに

多くの保育室は、便宜上四角い壁で囲まれた部屋で保育がなされている。管理する側にとっては目が行き届きやすく、安心できる面もあるが、幼児のパワーを考えてみると、とてもゆとりがあるとは思えず、もしかするとストレスを感じている幼児もいるのではないかと思われる。そこで、保育上許される範囲の中で、硬い壁から空間を開放し、家具とガラスの壁によって、内と外の両方に広がる保育室を目指した。南面には大きな連窓開口とフラットな床で繋がる半外部のウッドデッキを設け、縁側の様に部屋の延長として使用できるようになっている。

保育室後背部にも多くの光、空気感を漂わせるように多様な開口を設置することにより、幼児達が日々の天気や季節の移ろいを通して、自然との関わりを日々感じられる楽しい幼児室となっている。

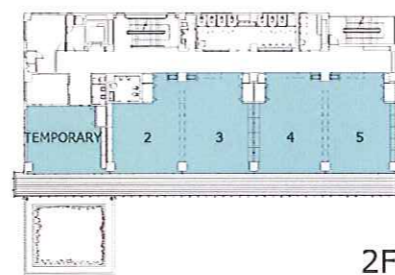
このソフトでフレキシブルな空間は、エネルギー溢れる幼児達のアクティビティの大きな受け皿となると考えている。



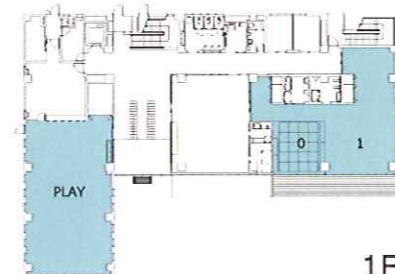
■保育室はカラーであふれる

色彩はすこぶる抑制的で、必要最小限とし、内外とも質感の魅力を引き出せる自然素材を使用した。

室内は、杉板と無彩色である白色を基調とし、必要な領域において、使い分けを行い、これにより、幼児達の創造力が豊かになることを期待している。自分たちがカラーであることをいずれ認識してもらえたと考えた。



2F



1F



建築作品部門

まちづくり全般

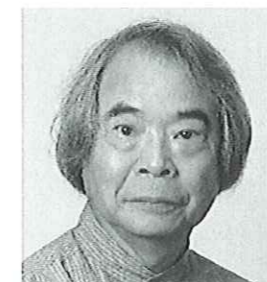
まちなみに融合し、そのオアシスとなる

神奈川県藤沢市

村岡保育園

藤沢市中心部の駅から700mの位置にあるこの保育園は、認可保育園の中では駅に最も近く、利便性に優れた場所に位置する。この保育園は、元々この場所より1km離れた場所にあったが、市の保育行政計画の一環として、この地に移設されることになった。敷地西側は、江ノ島に河口をもつ境川に接し、市中の騒音からまぬがれた静かな場所である。

幼児120名を育むこの園は、移設後の敷地は2割少なく、床面積は1.5割増しという市街地の保育施設のきびしい条件から、屋外遊戯場の地上確保は困難の為屋上を利用している。川風が吹き抜けるソフトなダブルスキンのファサードは、周囲景観に不要な負荷をかけることなく、このまちのオアシスとなると考えた。



応募代表者：山口 省一

株式会社 山口設計工房

昭和39年大矢根建築設計事務所

昭和46年山口設計工房設立

実務経験年数50年

街なみが優れた景観として成り立つには、建築物が程良い緊張を持って織りなされることが大切だと考えます。その街らしさを求めその良いところを見出し、創る側はその街のオリジナリティを個々の建築物に反映させる、このスタンスで地域に密着した建物創りを目指しています。

■ 市民参加型の計画とする

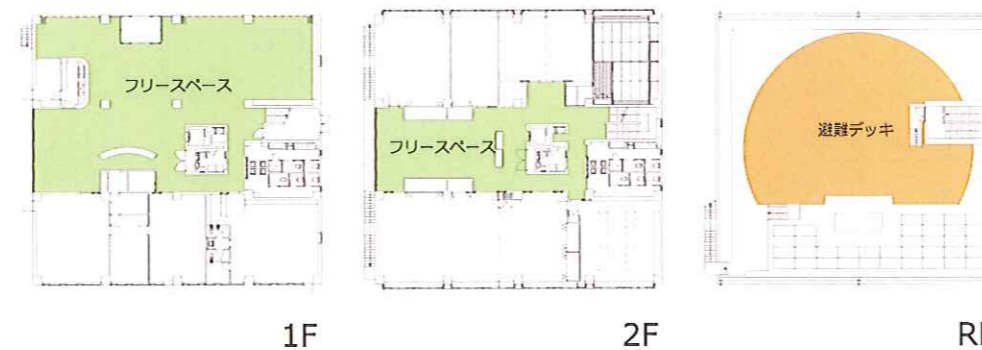
地域住民の幅広い意見、要望を聞き取り、安全で利用しやすい施設を目指した。計画段階から多くの市民に関心を持ってもらうことにより、施設に対する愛着が深まり、完成後の主体的な管理運営につながることを期待している。

■ 環境負荷を軽減した施設とする

既存の樹木がない状況から、緑を創出し、付近の樹木とあいまって緑化のモデルを目指し、計画地の近傍における景観、眺望、日照、騒音など、現状環境に負荷を極力少なく抑えている。また、海が近い為、津波発生時の避難場所となる屋上は、建物のボリュームが過大にならない様に軽量透視構造とし、避難デッキを設けている。



全景



フリースペース



キッズルーム

■ オープンなフリースペース

各階には一般に開放されたフリースペースを設け、誰でも気軽に立ち寄れる地域交流の場を作った。1階のフリースペースは外部広場、駐車スペースを含め、全面開放可能な開口により内外一体のイベント広場ともなり、毎月恒例のマーケットが開かれている。フリースペースからは各室に直接アプローチができる様に、入りやすいさも考慮している。また、屋上避難デッキは、非常時に視認されやすい位置となる様に、避難に容易な直接階段を設けた。

建築作品部門

まちづくり全般

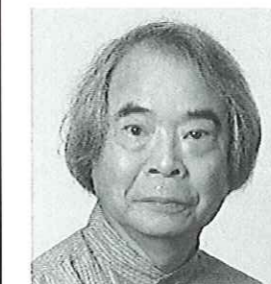
景観に負荷を与えることなく、地域に密着する

神奈川県茅ヶ崎市

松浪地域コミュニティセンター

茅ヶ崎市公共施設の再編計画における地域集会施設で12館構想の11館目として計画された施設である。この施設は地域住民が地域活動を通じ相互の連帯感と世代間の融合を図り、地域密着の場をつくりだすことを目指す施設である。また、自治意識を高め、心身の豊かさとふれあいを通じてコミュニティを発展させ、地域社会を形成する拠点となる施設でもある。そのため、このセンターは地域に開かれた開放性の高い施設として、イベントの開催などにより多世代の交流ができる施設計画となった。

この地域の環境特性でもある相模湾に面する海岸ゾーンによって培われたコミュニティを、更に進化発展できればと考える。



応募代表者：山口 省一

株式会社 山口設計工房

昭和39年大矢根建築設計事務所

昭和46年山口設計工房設立

実務経験年数50年

地域に密着した建物創りとは、その街らしさを求め深めることが大切である。その街らしさとは、永年培った人々のくらしぶりを含め、背景となるその街のムーブメント

を解析して、街なみを造りだした意味合いを見出し、それを資源と考え、新しい魅力を創りだす事と思っています。